

忙 申 閑

「カフェラテ、お淹れしましょうか？」
休憩時間にスタッフがそう言ってくれたので、素直にご厚意に甘えることにした。

おいしく頂いていると、スタッフ間で何やら盛り上がっている。

「これはカフェラテやんな？ じゃあカフェオレって何？」

「確かに違いが分からへん。どっちもコーヒーとミルクやんなあ」

“ミルクの量に違いがあるんじゃないかな”と考えていたところ、淹れたスタッフが説明をしてくれた。それによると、

- カフェオレとカフェラテは、語源がフランス語かイタリア語かという違いがある。オレがフランス語、ラテはイタリア語。どちらも「ミルク入りコーヒー」という意味。
- カフェオレはコーヒーにドリップコーヒーを用い、カフェラテはエスプレッソを用いる。

- 比率の違いにより、カフェラテの方がカフェオレよりミルクが多くなる。

ということらしく、みんなで感心する。考えてみると違いが分からないものって意外と世間に溢れているので、少しここで取り上げてみようと思う。

①ソーセージとウィンナー

ソーセージは豚肉・牛肉などを細切りにしたものを、香辛料とまぜて薄い膜状の袋に詰めたもの。ウィンナーは豚肉と牛肉を塩漬けにしたものを、羊の腸に詰めたものということである。“ウィンナーはソーセージの一種”と説明されていたので、迷った時はソーセージと言っておけば間違いのないようだ。

②つくねとつみれ

違いは調理法。つくねは丸めて団子状にし

違いを説明できますか？

広報委員 安井 潔

たものをいい、つみれはスプーン等で一口大の大きさに摘み取ったものを指す。漢字で書くと“捏ね”“摘入”となる。表記からも両者の違いがよく分かる。

私はこれまで“つくねは鳥で、つみれは魚”だと思っていた。間違いに気付いてよかった……。

③元旦と元日

元旦：元日の朝

元日：1月1日

上記が基本的な意味だといわれている。つまり“元日”は1月1日の“1日”を、“元旦”は1月1日の“午前中”を指すこととなる。では“元旦の朝”という表現は誤りなのかというと、国語辞典の中には“元旦”の意味として“元日”を載せているものもあるので、必ずしも間違いとはいえないらしい。

一方、「元旦の朝」は重複表現であり、避けるべき」としている辞書もあるので、“元旦”を“元日”という意味で使わないほうが無難かもしれない。

ほかにも“パフェとサンデー”、“ソーダとサイダー”など、何となく違うことは分かっていても説明できないものが結構あり、調べていて楽しかった。少し賢くなった気がしてほくほくしていると、先のスタッフがコーヒーの上の泡の違いについて説明している。あいにくその説明を聞くことができなかったので、次はそれについて調べてみようと思う。世の中にはまだまだ知らないことがたくさんありそうだ。